



With Kids

海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会



●● Newsletter 19号 2018年 1月25日 ●●

新しい年を迎え、お喜びを申し上げます。平成30年となり、平成生まれのお母さんやお父さんに会うことも多くなってきました。子ども達はみな平成生まれです。私たち With Kids のメンバーは昭和生まれ。「戦争を知らない子ども達」と言われながら大きくなりました。なんと幸せなことでしょう。今の子ども達も、その次の元号に生まれくる子ども達も、ずっとずっと「戦争を知らない子ども達」でありますように、年初に世界中の平和を祈願いたします。(SA)

With Kids に望むこと

鈴木一代 (埼玉学園大学大学院客員教授)

昨年の夏、研修会で海外在住の国際結婚家庭における子育てについてお話をさせていただいたことをきっかけに、With Kids の活動を深く知る機会を得ました。臨床心理士であるメンバーが、強い意志と情熱で、すでに10年以上、海外の日本人家庭を対象にボランティアでメール相談をされていることにたいへん感銘を受けました。私は、異文化間心理学、発達社会心理学、比較精神病理学を専門にしていますが、1990年代初頭から、インドネシアで、日本・インドネシア国際結婚家庭の子ども(「日系国際児」と呼んでいます)の言語・文化習得および文化的アイデンティティ形成とそれらに影響を及ぼす要因を明らかにするために継続的な研究をおこなっています。また、文化差を検討するために、ドイツ在住の日系国際児を対象にした調査も実施しています。日系国際児は、複数文化環境のなかで育つために、単一文化における発達よりもより複雑な発達過程をたどります。子育てに不安や悩みを抱えやすい、海

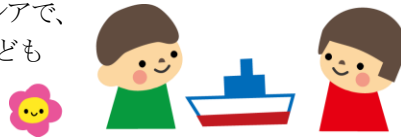
外在住の国際結婚家庭の日本人の親にとって日本語で相談できる With Kids はとても心強い存在と言えます。

With Kids に期待することはいろいろありますが、集約すると、海外在住の日本人家庭や国際結婚家庭を対象にしたメール相談の先駆者として、これまでの蓄積を十分に生かすとともに、With Kids の活動に賛同するさまざまな専門家とのネットワークを構築することによって、活動の輪をさらに広げていってくださることです。

異文化・多文化のなかで子育てをする家族が増加するなか、インター

ネットを利用したメール相談等の必要性はますます高まることと思いますが、With Kids の特性を大切にし、理想と現実のバランスをとりながら、無理のない範囲で、海外在住の日本人家庭や国際結婚家庭へのサポートを継続されま

すことをこころから願っています。



しつけ糸のように

「子育て=しつけ」と思ってしまうほど、子育て中の親にとっては、しつけは大きな問題ではないでしょうか。最近日本国内では、ペアレント トレーニング (parent training) と称される、親や保育者向けの子育て方の講座が盛んに行われています。それらは親子の豊かな関係性を基に「どのように子どもをしつけていくか」と言うことに主眼が置かれています。

しつけを漢字で書くと「躰」となり、身を美しくするという意味合いになります。日本では古来、礼儀正しい作法や丁寧な言葉使い、きちんとした身だしなみなどを身につけている子どもが「しつけの良い子ども」とされてきました。「型」から入る日本の多くの文化の中で、しつけもまた身ごなしを整えることで、社会性を型から取り入れているのです。しかし、型を整えることだけに執着してしまうと、本来のしつけの目的とは

違ったところに着地してしまいます。しつけの第一の目的は言うまでもなく「自立/自律」です。子どもが社会で自立していけるように導いていくことです。

エンパワメントセンター主宰の森田ゆり氏は、その著書『しつけと体罰』の冒頭で次のように述べています。



『そもそもしつけとはなんでしょう。着物を縫うにあたって、しつけ糸というのがあります。本縫いの縫い目が曲がらないように前もって、おおまかな形を定めることです。子どものしつけも、しつけ糸と同じように、おおまかな枠組みを子どもに与えること、つまり、子どもを、おおまかにガイドすることにほかなりません。』

さらに同氏はこのように述べています。

『しつけ縫いを親がするとしたら、本縫いは誰がするのでしょうか。子どもですよね。親の期待に沿うようにきちんと教え込むことは「しつけ」ではありません。正しい礼儀作法や言葉使い、身だしなみなどをきちんと教え込む「しつけ」は、親が本縫いをしてしまうようなものです。

しつけの目的は子どもの自立/自律です。子どもが自ら感じ、考え、行動することができるように、自分をコントロールできるようにすることです。親の型にはめ込むことではありません。』

さて、あなたのしつけの仕方は、しつけ縫い型ですか? 本縫い型ですか? それともしつけもしない糸無し型ですか? (SA)

*エンパワメントセンター: <http://empowerment-center.net/>



2017年度 日本心理臨床学会 自主シンポジウム 発表報告

1年間で14,707人でした。いったい何の数字でしょう？2015年の1年間に両親共に日本人、および父か母のいずれかが日本人で、海外で生まれた子どもの数です。後者、つまり国際結婚の家庭が66.70%で、そのうち、母親が日本人の場合は、72.9% = 7,151人ということでした（在外公館に出生届を提出し、日本国籍を取得した数であり、国際結婚家庭での出生はもっと多いと推定されます）。日本語による子育て支援のニーズが海外でも少なくないことを実感できる数字でないでしょうか。



私たちは、2017年の日本心理臨床学会自主シンポジウムに「With Kids が会える国際結婚」というテーマで参加いたしました。上記の数字は、指定討論者としてコメントをくださり、今号にも寄稿して下さった鈴木一代先生が、日本の人口動態統計から算出して下さったものです。

With Kidsには国際結婚で子育て中の方からも多くの相談が寄せられています。多文化の中で育つ子どもたちとご家族をよりの確に支援できるよう、今後も研鑽を積んでいきたいと思っています。(SK)

海外訪問活動報告

(1) ドイツ 2017年10月9～13日

日本から1名と、欧州在住の1名が合流し、メンバー2名でデュッセルドルフ日本人学校とミュンヘン日本人学校を2日間ずつ訪問しました。デュッセルドルフでは、授業観察と担任の先生へのコンサルテーション、保護者相談、教職員研修を実施。教職員研修は、①ペアレント・トレーニングの考え方とスキル紹介 ②心理検査の指導への活かし方の2テーマ。ミュンヘンでは、授業観察と担任へのコ

ンサルテーション、保護者向け研修会は、「ペアトレってなに?」(低学年向け)「思春期の親子関係」(高学年向け)の2テーマ、教職員研修会は「ストレスマネジメント」で実施しました。滞在費や航空賃を学校側にご負担いただいたおかげで4年連続のドイツ訪問が実現しました。年に一度でも、役に立つ訪問活動となるよう、事前調整を含めご尽力いただいた関係者の皆様に感謝いたします。(SK)

(2) 台湾 2017年11月22～26日

2年ぶり5回目の台湾訪問活動をメンバー3名で実施。今年は台北に始まり、高雄、台中、台南の4都市を回りました。「居留問題を考える会」の役員の皆様のご協力を得て、移動先で待ち構えている各地の役員に会場まで連れて行ってもらうなど、スムーズな活動が出来ました。

活動内容は、小学6年生向けのワークショップを1回。テーマは「アサーション：友達の気持ちを大切に、自分の気持ちも大切に」。保護者向けの講演会・座談会を6回開催。

テーマは「子育て」「思春期」「ストレス」。個別相談は全26件お受けしました。毎回台湾では、「居留問題を考える会」が中心となり、台北、高雄、台中の日本人学校と協力して、現地での移動費や宿泊費を負担して下さい、大変助かっています。また現地での緻密な行動予定を組んでいただき、滞りない活動が出来ましたこと感謝しております。(SA)



【With Kids よりお知らせ】 2018年度のWith Kidsによる海外日本人学校等訪問（個別相談、教職員や保護者研修会など）をご希望の場合は、2018年3月末までに soudan@withkids-kaigai.com までお問い合わせください。

メンバー紹介

山田 千晶：フランス・カンヌ在住です。学生時代から文化の違い、価値観の違いに興味があり、他の文化ではどのように人が育つのか知りたくてフランスに留学して文化発達心理学を勉強しました。日本に戻ってからは、難民相談やフランス人学校、発達相談、精神科クリニック、教育相談などの仕事をしてきました。2012年からフランスに引越、こちらの心理士の国家資格をもらい、発達相談や留学生相談活動をしています。よろしくお願ひします。

メール相談を受け付けています。

ホームページ上の相談フォームからお申込みください。

- メール相談は無料です。
- 匿名での相談が可能です。
- 1つのご相談につき3往復までお受けします。
- ご相談前に必ず、相談規約をご確認ください。
- **ホームページ**：<http://www.withkids-kaigai.com/>

With Kids のHPは (財) KDDI の助成金で作成しました。

第19号 発行：2018年1月25日

発行元/文責：With Kids

海外に住む子ども達の心の健康をサポートする臨床心理士の会

代表：澤谷 厚子

事務局：〒227-0061 横浜市青葉区桜台 16-39

連絡先：soudan@withkids-kaigai.com

